



<b>株主メモ</b>	
<b>決算期日</b>	毎年3月31日
<b>定時株主総会</b>	毎年6月に開催
<b>利益配当基準日</b>	3月31日
<b>中間配当基準日</b>	9月30日
<b>その他の基準日</b>	上記の他、必要があるときは、あらかじめ公告して定めます。
<b>名義書換代理人</b>	東京都港区芝三丁目33番1号 中央三井信託銀行株式会社
<b>同事務取扱所</b>	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
<b>（郵送物送付先） （お問合せ先）</b>	中央三井信託銀行株式会社 証券代行部 TEL. (03) 3323-7111
<b>同 取 次 所</b>	中央三井信託銀行株式会社 全国各支店 日本証券代行株式会社 本店および全国各支店
<b>1単元の株式数</b>	100株
<b>公告掲載新聞</b>	東京都において発行する日本経済新聞

※当社は決算公告に代えて、貸借対照表および損益計算書を当社のホームページ (<http://www.fujisash.co.jp/>) に掲載しております。

ホームページをご利用ください。



ホームページアドレス <http://www.fujisash.co.jp/>

## 第24期事業報告書

(平成16年4月1日から平成17年3月31日まで)



●表紙写真説明

①愛・地球博「グローバル・ループ」  
所在地：愛知県愛知郡長久手町  
設計：(株)菊竹清訓建築設計事務所・(株)環境システム研究所 設計共同体  
監理：(財)2005年日本国際博覧会協会 (株)日建設計

②ミューザ 川崎セントラルタワー  
所在地：神奈川県川崎市  
設計：都市基盤整備公団（現：独立行政法人 都市再生機構）神奈川地域支社、(株)松田平田設計  
設計/実施設計：大成建設(株)  
施工：大成建設(株)

③国立国際美術館  
所在地：大阪府大阪市  
設計：シーザーペリ アンド アソシエーツ ジャパン  
施工：(株)銭高組・(株)鴻池組・(株)大本組 特定建設工事 共同企業体

[Ⅰ工区]：(株)大林組・(株)鴻池組・鉄建建設(株)・矢作建設工業(株) 共同企業体  
[Ⅱ工区]：清水建設(株)・東急建設(株)・大末建設(株)・徳倉建設(株) 共同企業体  
[Ⅲ工区]：鹿島建設(株)・飛鳥建設(株)・オーバーシーズベクトルインコーポレイテッド・名工建設(株) 共同企業体

## 不二サッシ株式会社

〒211-0012  
神奈川県川崎市中原区中丸子35番地4 Tel. (044) 422-1111



## 不二サッシ株式会社





株主の皆様にはますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

また、平素より格別のご支援ご愛顧を賜り、誠に有り難うございます。

私ども不二サッシは、昭和5年の創業以来、アルミサッシのパイオニアとして、常にビル、住宅における快適な環境づくりを提案してまいりました。

しかしながら、平成2年ごろから始まりましたバブル経済崩壊後の不況が続くなか、建設市場の急速な縮小と競争の激化により業績悪化を余儀なくされてきましたが、漸く平成15年度におきまして、黒字転換を果たすことができました。これもひとえに皆様の長年にわたる温かいご支援の賜物と心より御礼申し上げます。平成16年度からは、新中期3ヵ年経営計画を策定し、連結ベースのコストダウンと無駄を排除し、黒字体質への完全な復活と一段と強固な経営基盤の構築を推進しておりますが、このたび、当社の第24期（平成16年4月1日から平成17年3月31日まで）が終了いたしましたので、事業の概況をご報告申し上げます。

### 当期の概況

当期におけるわが国経済は、後半に入り生産や輸出にかげりが見え始めたものの、設備投資や個人消費を中心とする国内民間需要の増加寄与などから、景気は緩やかな回復基調を維持してまいりました。

アルミ建材業界におきましては、新設住宅着工戸数が分譲住宅を中心に僅かながら増加しているものの、住宅用建材品の需要は減少に転じ、また、企業の設備投資意欲を背景に非木造建築物着工床面積が増加基調にあるものの、ビル用建材品の需要は低迷状態をなかなか脱出できない状況が続いており、ビル建材事業の比率の高い当社グループにとっては大変厳しい経営環境となりました。

このような厳しい環境に対処すべく、当社は、上半期には環境・防犯・防災に配慮した約40点の商品を紹介する「2004年商品展示会」を全国各地で開催し、下半期にはマンション向けリニューアルサッシ「リサッシ」、「マンション用すすり・門扉・フェンス」のエクステリア新商品、2004年度グッドデザイン賞受賞の横引きアルミシャッター「シエスタV」や防犯性能の高いオリジナル防犯部品を市場投入するなど販売促進に努めてまいりました。また、環境事業や形材外販事業、ユニットハウス・防災倉庫・太陽光発電システムを販売する新規事業等非サッシ事業分野の拡大に注力する一方、継続的な収益

向上策として契約適正化の推進ならびに製造原価・運送費・人件費等のコストダウンに全社を挙げて取り組んでまいりました。更に、当社は、不二サッシグループの親会社として子会社35社を含めたグループ全体の最適化と効率化を推進しておりますが、その一環として、平成16年10月1日付で九州不二サッシ株式会社を完全子会社化いたしました。また、グループ各社におきましても、グループの一員として各社の業績向上に懸命の努力を重ねてまいりました。

この結果、当期の業績は、連結売上高では形材外販事業の売上高は増加したものの、厳しい市場環境や受注競争激化の影響を受けてビル用建材品や環境事業の売上高が減少したことなどから、前期に比べ2.1%減の1,228億7千8百万円となりました。一方、損益面では、売上減や販売価格の下落、更にアルミ地金価格の高騰によるマイナスを全グループを挙げたコストリダクションおよび利益確保に重点を置いた営業活動への取り組みによって補い、前期に引き続き黒字化を果たすことができましたものの、連結経常利益は前期に比べ10億1千3百万円減の19億4百万円となりました。また、厚生年金基金解散益43億5千万円等の計上により、特別利益は48億7千4百万円となり、一方、特別損失として回転率の低い在庫品の前倒し処理等33億6千3百万円を計上した結果、連結当期純利益は前期に比べ6億4

千2百万円増の17億4千3百万円となりました。

### 対処すべき課題

今後のわが国経済の見通しは、輸出の減速感が更に強まることによる設備投資の抑制や社会保障・税制面での負担増から所得環境が悪化することによる消費の抑制等、景気の下押し要因を抱え予断を許さない状況ではありますが、民需主導の緩やかな景気回復が継続するものと期待されております。

アルミ建材業界におきましては、地金等原材料の高騰や需要低迷が続くものと予想され、更に、当社グループの主力であるビル用建材品市場においては、企業間の競争激化による受注価格の低下が懸念されるなど、依然として厳しい経営環境が続くものと思われま

す。このような状況のなかで、当社グループといたしましては、受注価格の低下に歯止めをかける契約適正化の推進や更なる合理化・総コストの削減などを図る一方、引き続き顧客ニーズ・市場動向に合わせた新商品の開発による販売促進、すすり・門扉・ウッドデッキ等サッシ外商品やリフォーム事業への取り組み強化、環境事業・形材外販事業・新規事業（ユニットハウス・防災倉庫・太陽光発電システム）等非サッシ事業分野の拡大を図るなど、売上増強・収益向上を強力に推進してまいります。また、不二サッシグループの再編を通じ、連結ベースのコストダウ

ンと無駄の排除を推し進め、「新中期経営計画（平成16年度～平成18年度）」に基づき、黒字体質への完全な復活と一段と強固な経営基盤の構築に向けて懸命の努力を傾注してまいり所存であります。

今後とも、不二サッシは、アルミサッシを核とした建材事業から、形材外販事業・環境事業・新規事業（ユニットハウス・防災倉庫・太陽光発電システム）等非サッシ事業分野への多角化を連結ベースで推進し、“窓から夢を”ひろげてまいります。

株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年6月

取締役社長

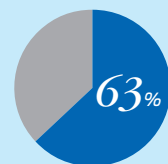
嵯峨明

# ビル建材事業

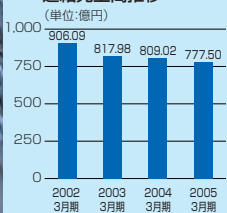
## BUILDING

● 主要製品名  
カーテンウォール、ビル用サッシ・ドア、中低層用サッシ・ドア、改装用サッシ等

売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

ビル用建材品の市場におきましては、企業設備投資意欲を背景に、非木造建築物着工床面積は増加基調にあるものの、工場・倉庫等建築物のアルミサッシ装着率が低いことなどから、ビル用建材品の需要は依然として低迷状態のまま推移いたしました。

このような市場環境のもと、当社グループはシャープな外観と美しい木目のアルミ木材複合カーテンウォール「ジェイナス」、下枠のレール溝を解消したFNS-70シリーズ「フラットステージ」、マンションから戸建住宅までの開口部用横引きアルミシャッター「シエスタV」、超高層対応ハイグレードサッシ「FNS-100シリーズ」等の差別化商品による受注拡大を図る一方、ユニットハウス・防災倉庫・太陽光発電シ

① **ビル・マンション用バリアフリーサッシ「フラットステージドアタイプ」**  
「2004年度グッドデザイン賞」を受賞したスライディング系バリアフリーサッシ「フラットステージ」の商品バリエーションに「フラットステージドアタイプ」を追加設定し発売しました。この商品はアルミ製バリアフリードアで、高い水密性能を実現しているにもかかわらず、当社独自の技術によって室内と屋外の床の段差を解消し、なおかつ、下枠の立ち上がりも無くしたユニバーサルデザインの商品です。

② **マンション向けリニューアルサッシ「リサッシ」 サッシ交換用障子**  
マンションの新しいリニューアル商品として「サッシ交換用障子（商品名：リサッシ）」を（株）長谷工コーポレーションと共同で商品化し発表しました。従来、マンションのサッシのリニューアルは長年の使用により経年劣化した初期性能を回復したり、破損した部品を切り替えることで失われた機能を取り戻すために行われてきましたが、最近では、これら初期性能の回復に留まらず断熱性・防露性・防犯性・操作性などの性能仕様のアップがリニューアル工事において求められております。大がかりな工事の必要無しに障子を取り替えるだけで、サッシの性能仕様のアップが可能な「リサッシ」は、このようなお客様からの要望を形にした商品です。

③ **性能・機能・安心を追求した「マンション用エクステリア商品」**  
マンション用エクステリア商品の多様化するため、新たなデザインと機能を有した手すり・門扉・フェンスの新商品を発売しました。マンション用エクステリア商品は、当然のことながら高層階での使用を想定した設計仕様になっており、一般的な住宅用のエクステリア商品と比較して、その使用条件は大変厳しいものとなります。今回発売した手すり・門扉・フェンスは、これらの厳しい条件においても高い性能をクリアできる仕様で開発・設計された、安心してお使いいただけるマンション用エクステリア商品です。

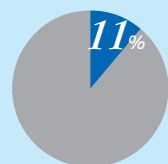


# 住宅建材事業

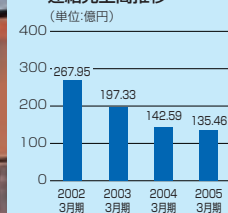
## HOUSING

● 主要製品名  
住宅用サッシ 玄関引戸・ドア、室内建具、エクステリア製品等

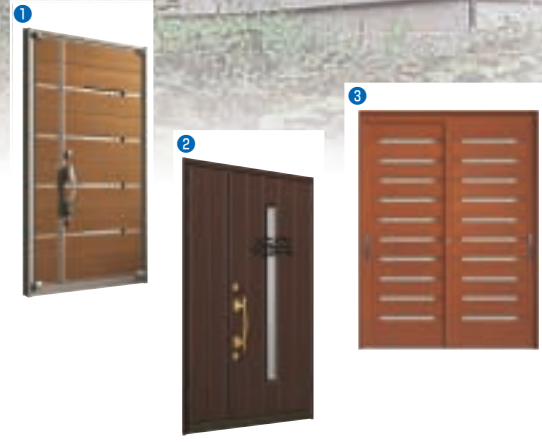
売上高構成比



連結売上高推移



● 事業トピックス



市場環境と業績

住宅用建材品の市場におきましては、新設住宅着工戸数が分譲住宅を中心に僅かながら増加しているものの、住宅用建材品の需要は減少に転じたまま推移いたしました。

このような市場環境のもと、当社は、ウインドウ・リフォーム部を新設し、エコ関連商品の販売体制を強化するとともに、グループを挙げて雨戸の錠を締めたままで通風・採光・日射遮蔽・プライバシー保護が自由にできる「エコアマド」、住まいの居住性を向上させるマルチ機能の「エコシャッター」、サッシの室内側に付く窓の安心・

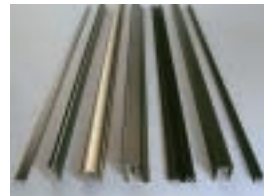
- ① **高級断熱玄関ドア「ジェイズム」**  
ガラス廻りの額縁やモールなどの装飾部分を極力取り除き、CB素材（低光沢・マット調）と木調の面材（横目柄・縦目柄）、そしてミストガラスのそれぞれの質感をいかしたデザインコーディネートにより、流行のシンプルモダンを表現したドアです。
- ② **木調断熱玄関ドア「フローチア」**  
縦通しの木目調張りに鉄をあしらったシンプルな北欧タイプのデザインと、鋳物レリーフをコーディネートしたアクセント付きデザインのふたつの表情をもつ玄関ドアです。
- ③ **木調アルミ玄関引戸「粋香（すいか）」**  
流行のモダン系の住宅に調和するデザイン展開を図るとともに、引戸での新色となる、モダンなチャコール色や上品なレディメーブル色を採用した玄関引戸です。

安全お役立ち商品「セフティルーバーWINDOW」等のオリジナル商品ならびに新日軽株式会社に生産委託している一般住宅用サッシ等の販売拡大を図るなど、売上増強に努めてまいりました。

しかしながら、需要減少下における販売競争激化の影響などから、当事業部門の売上高は前期に比べ、5.0%減の135億4千6百万円となりました。一方、営業利益は前期に比べ13億5千3百万円改善し、4億9千6百万円となりました。



# 形材外販事業 MATERIAL



## 市場環境と業績

形材外販事業におきましては、当社グループは押出形材をアルミサッシメーカーならではの高い技術と蓄積したノウハウにより、極めて精度の高い商品として効率よく生産しております。その用途はプレハブ住宅向け形材、手すり・面格子、簡易間仕切、エクステリア材等の建材関連市場向け形材のほか、仮設分野でのアルミ化、足場材、高速道路用透光板や車両用部材など広い分野にまたがっております。

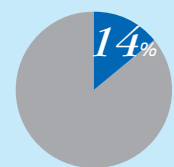
当社グループでは、建材関連市場向け従来商品の販売促進を図る一方、アルミの他の金属に比べ、軽い、美しい、錆びにくい、加工性および

リサイクル性に優れるといった特徴をいかし、新規用途先を開拓するなど売上拡大に努めてまいりました。

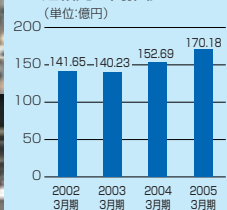
その結果、当事業部門の売上高は、前期に比べ11.5%増の170億1千8百万円となりました。また、営業利益は前期に比べ2億2千5百万円増の4億4千7百万円となりました。

### ● 主要製品名 アルミ形材

#### 売上高構成比



#### 連結売上高推移 (単位:億円)



### ● 事業トピックス

当社は不二サッシグループ全体の再編を通じて、事業の最適化と効率化を推進しておりますが、その一環として以下の施策を実施いたしました。これらによりまして、生産子会社の生産マップを再構築し、グループ全体での原価低減を図り利益を確保するとともに、効率的な形材販売体制の確立を目指しております。

- 平成16年10月1日付 株式交換により、不二サッシ株式会社を完全親会社とする、九州不二サッシ株式会社の完全子会社化を実施
- 平成17年4月1日付 営業譲渡により、関西不二サッシ株式会社の事業の一部（アルミニウムの形材押出生産ならびに販売事業）を九州不二サッシ株式会社へ移管

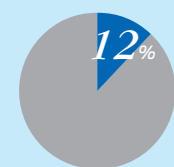


# その他事業 OTHERS

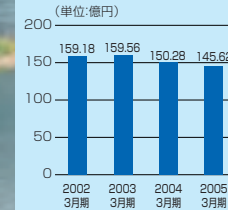
### ● 主要製品名

産業廃棄物処理プラント、産業廃棄物処理、運送、アルミ精密加工品、各種金属の表面処理、不動産事業等

#### 売上高構成比



#### 連結売上高推移 (単位:億円)



### ● 事業トピックス

## 市場環境と業績

当事業は、社会的に期待されるエコロジービジネスである「環境事業」・「産業廃棄物処理業」、アルミの特徴である美観・軽量・加工性等をいかした「アルミ精密加工品事業」などから構成されております。

「環境事業」は、都市ごみ焼却飛灰処理設備・ダイオキシン類低温加熱分解装置、リサイクル・粗大ごみ処理施設等のプラント類受注に加え、飛灰用重金属固定剤、排ガス用塩化水素除去剤等の薬剤類販売を行っておりますが、政府の廃棄物関係予算が大幅な減額になるなど厳しい市場環境のなか、新規参入メーカーに対する開発営業や民需および下水処理・産業廃棄物等関連市場の開拓に注力するなど、受注拡大に努めてまいりました。

また、「産業廃棄物処理業」は、産業廃棄物の収集運搬・中間処理・最終処分に至る一



環処理を主体とした受注に加え、「ダイオキシン処理事業」、「土壌汚染処理コンサルタント業」や「廃蛍光管リサイクル処理業」への進出を図るなど事業拡大に努めてまいりました。

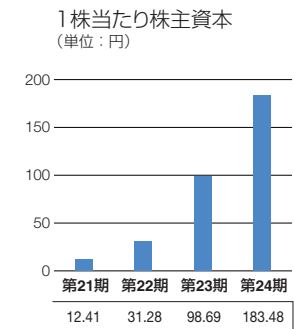
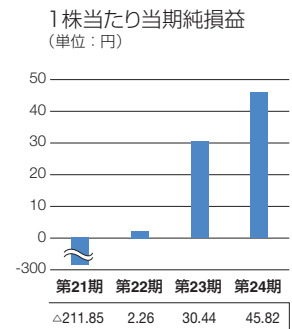
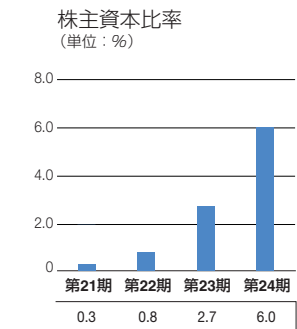
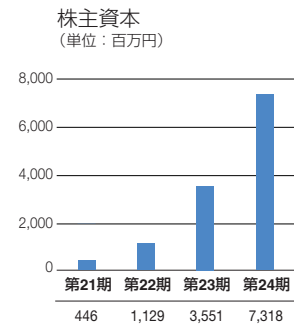
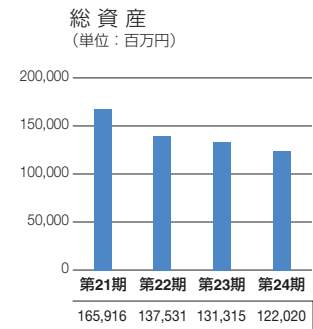
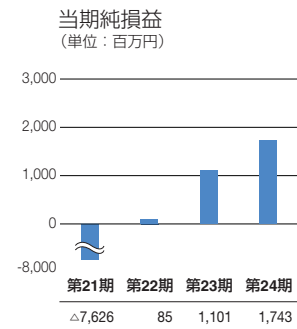
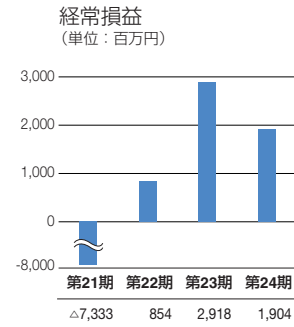
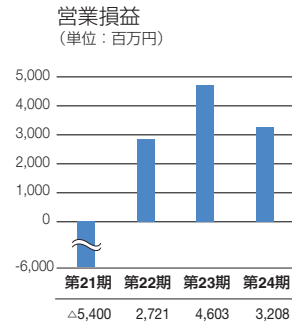
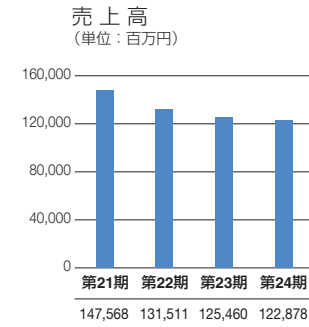
「アルミ精密加工品事業」は産業用電子機器部品のヒートシンク、テレビ用フレーム、太陽電池分野の架台・ソーラー枠、自動車関連部品等の新規用途先を開拓するなど、受注拡大に努めてまいりました。

しかしながら、アルミ精密加工品事業の売上高は増加したものの、環境事業の売上高が受注の中心である官需低迷の影響を受けて減少したことなどから、当事業部門全体としての売上高は前期に比べ3.1%減の145億6千2百万円となりました。一方、営業利益は前期に比べ6千2百万円増の8億2百万円となりました。

- 平成16年5月 不二倉業株式会社、ダイオキシン類処理施設稼働開始  
当社グループ会社の不二倉業株式会社は産業廃棄物処理事業の拡大を積極的に展開しておりますが、ダイオキシン類処理施設を完成させ、平成16年5月より本格稼働を開始いたしました。この施設は、既存の特別管理産業廃棄物処理ラインにコンクリート固形化中間処理施設として新たに併設したダイオキシン類処理の専用施設で、廃棄物処理の安全性と経済性をコンセプトに設置いたしました。また、廃棄物の漏洩などの事故を未然に防止するため、廃棄物の投入と処理物の回収を除く工程を完全無人化し、かつ設備を密閉して処理を行う対策により、極限まで安全性を高めることで環境保全対応に万全を期した施設であります。



## 財務ハイライト (連結)



## 連結決算の概要

## 連結貸借対照表

(単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)	科目	当連結会計年度 (平成17年3月31日現在)	前連結会計年度 (平成16年3月31日現在)
<b>資産の部</b>			<b>負債の部</b>		
<b>流動資産</b>	<b>53,248</b>	<b>59,026</b>	<b>流動負債</b>	<b>90,192</b>	<b>93,274</b>
現金及び預金	7,700	7,732	支払手形及び買掛金	23,058	22,236
受取手形及び売掛金	26,639	28,111	短期借入金	57,861	59,405
たな卸資産	17,762	21,925	未払法人税等	654	518
繰延税金資産	82	165	前受金	4,613	7,727
その他	1,752	1,822	賞与引当金	570	499
貸倒引当金	△ 688	△ 730	工事損失引当金	71	—
<b>固定資産</b>	<b>68,771</b>	<b>72,288</b>	その他	3,361	2,888
<b>有形固定資産</b>	<b>61,035</b>	<b>62,696</b>	<b>固定負債</b>	<b>24,291</b>	<b>31,860</b>
建物及び構築物	13,704	14,352	社債	35	50
機械装置及び運搬具	6,590	7,357	長期借入金	8,713	12,163
土地	39,156	39,163	繰延税金負債	1,056	964
その他	1,583	1,823	再評価に係る繰延税金負債	5,955	6,164
<b>無形固定資産</b>	<b>504</b>	<b>565</b>	退職給付引当金	7,505	11,379
投資その他の資産	<b>7,231</b>	<b>9,026</b>	役員退職慰労引当金	256	291
投資有価証券	4,770	5,701	連結調整勘定	112	114
長期貸付金	407	454	その他	656	732
繰延税金資産	70	842	<b>負債合計</b>	<b>114,484</b>	<b>125,134</b>
その他	2,844	3,340	<b>少数株主持分</b>	<b>217</b>	<b>2,629</b>
貸倒引当金	△ 861	△ 1,313	<b>資本の部</b>		
<b>資産合計</b>	<b>122,020</b>	<b>131,315</b>	資本金	<b>8,678</b>	<b>8,678</b>
			資本剰余金	<b>2,319</b>	<b>8,725</b>
			利益剰余金	△ 12,465	△ 22,933
			土地再評価差額金	<b>9,218</b>	<b>9,225</b>
			その他有価証券評価差額金	<b>517</b>	<b>695</b>
			為替換算調整勘定	△ 908	△ 839
			自己株式	△ 41	△ 1
			<b>資本合計</b>	<b>7,318</b>	<b>3,551</b>
			負債、少数株主持分及び資本合計	<b>122,020</b>	<b>131,315</b>

連結損益計算書 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
売上高	122,878	125,460
売上原価	102,274	102,997
売上総利益	20,603	22,462
販売費及び一般管理費	17,394	17,859
営業利益	3,208	4,603
営業外収益	640	543
受取利息	46	47
受取配当金	114	53
連結調整勘定償却額	58	33
持分法による投資利益	6	17
保険配当金	124	145
その他	288	244
営業外費用	1,944	2,228
支払利息	1,616	1,734
手形売却損	154	180
その他	173	313
経常利益	1,904	2,918
特別利益	4,874	498
投資有価証券売却益	506	454
厚生年金基金解散益	4,350	—
その他	18	44
特別損失	3,363	1,831
固定資産売却除却損	669	278
販売用不動産評価損	—	612
たな卸資産除却損	2,398	673
その他	295	266
税金等調整前当期純利益	3,415	1,584
法人税、住民税及び事業税	725	601
法人税等調整額	914	△ 120
少数株主利益	32	3
当期純利益	1,743	1,101

連結剰余金計算書 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	8,725	8,725
資本準備金期首残高	8,725	8,725
資本剰余金増加高	2,319	—
株式交換による増加高	2,319	—
資本剰余金減少高	8,725	—
欠損填補のための取崩額	8,725	—
資本剰余金期末残高	2,319	8,725
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	△ 22,933	△ 24,038
欠損金期首残高	22,933	24,038
利益剰余金増加高	10,473	1,109
当期純利益	1,743	1,101
資本剰余金取崩による増加高	8,725	—
土地再評価差額金取崩額	4	7
利益剰余金減少高	5	3
役員賞与	5	3
(うち監査役賞与)	(—)	(—)
利益剰余金期末残高	△ 12,465	△ 22,933

連結キャッシュ・フロー計算書 (単位：百万円)

科目	当連結会計年度 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前連結会計年度 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,657	9,340
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 503	△ 37
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,033	△ 7,545
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 7	△ 21
現金及び現金同等物の増加額	112	1,736
現金及び現金同等物の期首残高	7,174	5,438
現金及び現金同等物の期末残高	7,286	7,174

単体決算の概要

貸借対照表 (単位：百万円)

科目	当期 (平成17年3月31日現在)	前期 (平成16年3月31日現在)
資産の部		
流動資産	32,630	36,725
現金預金	3,004	3,116
受取手形	4,606	6,872
売掛金	10,615	10,103
たな卸資産	12,333	15,762
その他	2,708	1,726
貸倒引当金	△ 637	△ 855
固定資産	61,720	63,095
有形固定資産	44,370	45,446
建物	8,971	9,379
機械装置	3,063	3,586
土地	31,131	31,131
その他	1,204	1,349
無形固定資産	215	219
投資その他の資産	17,134	17,428
投資有価証券	15,314	14,869
その他	6,502	6,735
投資損失引当金	△ 2,396	△ 1,721
貸倒引当金	△ 2,285	△ 2,455
資産合計	94,351	99,821
負債の部		
流動負債	71,005	73,325
支払手形	9,923	9,735
買掛金	7,157	6,627
短期借入金	47,339	48,249
前受金	4,265	6,880
その他の流動負債	2,318	1,831
固定負債	16,491	23,138
長期借入金	6,688	9,806
再評価に係る繰延税金負債	5,352	5,352
退職給付引当金	3,559	6,840
その他の固定負債	890	1,138
負債合計	87,496	96,463
資本の部		
資本金	8,678	8,678
資本剰余金	2,319	8,725
利益剰余金	△ 12,403	△ 22,566
利益準備金	—	417
当期末処理損失	12,403	22,983
土地再評価差額金	7,883	7,883
株式等評価差額金	380	637
自己株式	△ 2	△ 1
資本合計	6,855	3,358
負債及び資本合計	94,351	99,821

損益計算書 (単位：百万円)

科目	当期 (平成16年4月1日から 平成17年3月31日まで)	前期 (平成15年4月1日から 平成16年3月31日まで)
経常損益の部		
営業損益の部		
営業収益	80,995	85,179
売上高	80,995	85,179
営業費用	78,365	81,331
売上原価	67,691	70,280
販売費及び一般管理費	10,674	11,051
営業利益	2,630	3,847
営業外損益の部		
営業外収益	828	782
営業外費用	1,816	2,034
経常利益	1,642	2,596
特別損益の部		
特別利益	4,261	490
特別損失	4,391	1,906
税引前当期純利益	1,512	1,180
法人税、住民税及び事業税	75	98
当期純利益	1,437	1,081
前期繰越損失	13,840	24,065
当期末処理損失	12,403	22,983

損失処理 (単位：百万円)

科目	当期 (平成17年3月期)	前期 (平成16年3月期)
当期末処理損失	12,403	22,983
これを次のとおり処理いたします。		
利益準備金取崩額	—	417
資本準備金取崩額	2,319	8,725
次期繰越損失	10,084	13,840



